演題番号19	脳血管障害による嚥下障害のある患者に対する看護師の関わり
発　表　者	市立三次中央病院　技師・看護師　田中　亜佑美
共同発表者	

脳血管障害に嚥下障害が合併する頻度は，報告によって幅があるが発症後の経過を追跡した研究では症例７日目に50％合併を認めていた。看護師には，摂食嚥下訓練を安全かつ効果的に行い，患者の意欲を支えながら食事環境を整えていくことが望まれる。今回，脳血管障害による嚥下障害のある患者を受け持つ中で，言語療法士と連携しながら食事形態の検討や発声練習･アイスマッサージなどの嚥下訓練を行った。また看護師サイドでは，体位調整や生活リズムの補正を行い食事環境を整える関りを行った。その結果，食事状況の改善や嚥下機能の回復などにつなげることができた。

MEMO